

○ 首都圏ミートパッカー協が台湾で和牛セミナー セット購入のメリット、交雑種の品質の高さを説明、輸出拡大の弾みに

首都圏・関東の畜産生産者と食肉流通事業者らでつくる「首都圏ミートパッカー輸出推進協議会」(代表理事：阿部昌史(株)ミート・コンパニオン代表取締役)はこのほど、台湾新北市内で日本産和牛のセミナーと市場調査を行った。現地商社やスーパーマーケットのバイヤーらを招いて、日本産和牛の特長や国内外の需要動向、さらにコストダウンをはかるためのセット購入や交雑種の品質の良さを提案するなど、バイヤーらのビジネスに役立つ内容となり、熱心に聴講していた参加者の様子からも、今後の台湾向け輸出拡大が期待できるセミナーとなった。

同協議会は今回、11月14日から16日までの日程で、台湾大手商社の精肉売り場やスーパーマーケットでの市場調査と新北市内での和牛セミナーを実施した。協議会からは阿部代表理事をはじめ5人が参加した。このうち、和牛セミナーには、地元の商社およびスーパーマーケットのバイヤー、鉄板焼きおよびフレンチレストランのシェフなど25人が参加。開会挨拶では阿部代表理事が、海外でのジャパンプランド確立



の重要性をはじめ、和牛統一マークの活用など、本物の日本産和牛であることが分かる表示や流通方法の確保の必要性を説明し、理解を求めた。

協議会から派遣された2人の講師からは、和牛の生産肥育管理や格付制度など、日本特有の和牛の個体管理の重要性と各部位の特徴を生かした調理方法などが説明された。諸外国での日本産牛肉の需要動向を説明、それに伴い、牛肉のセット買いによるコストダウンを提案し、和牛以外の交雑種などの品種の良さも紹介した。講義後も来場者全員が熱心にディスカッションを行い、今後の台湾輸出へのさらなる弾みができたことを実感したという。来年2月の旧正月へ向けてさらに輸出が増えることを期待して、盛況に終わったという。